



「資本コストや株価を意識した経営の 実現に向けた対応」について

2024年3月6日

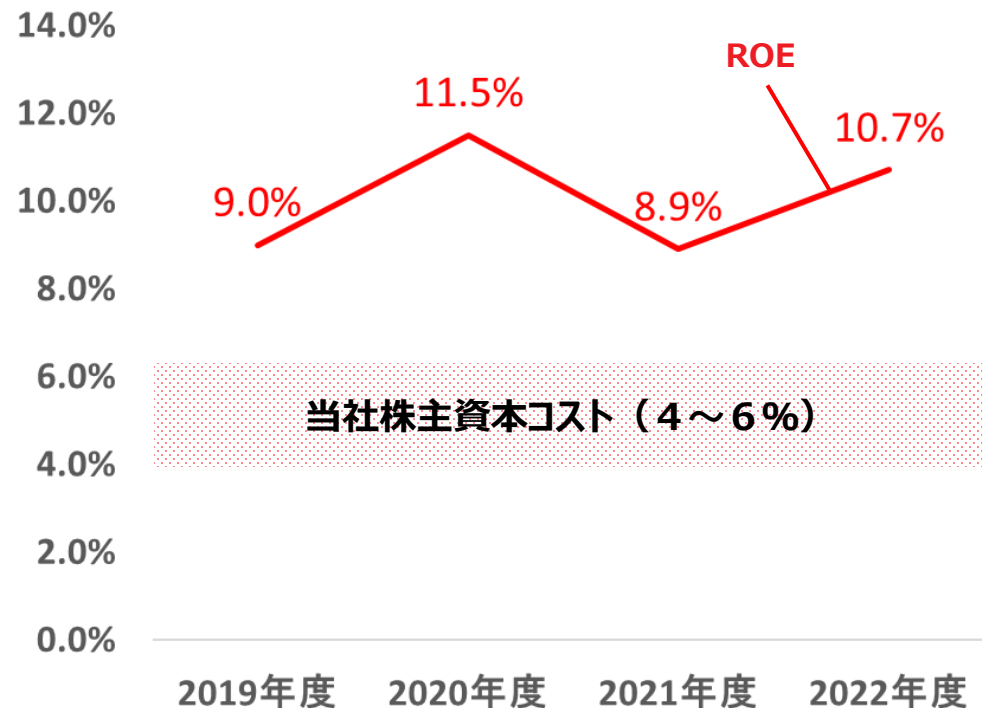
日清食品ホールディングス株式会社

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応 – 現状分析

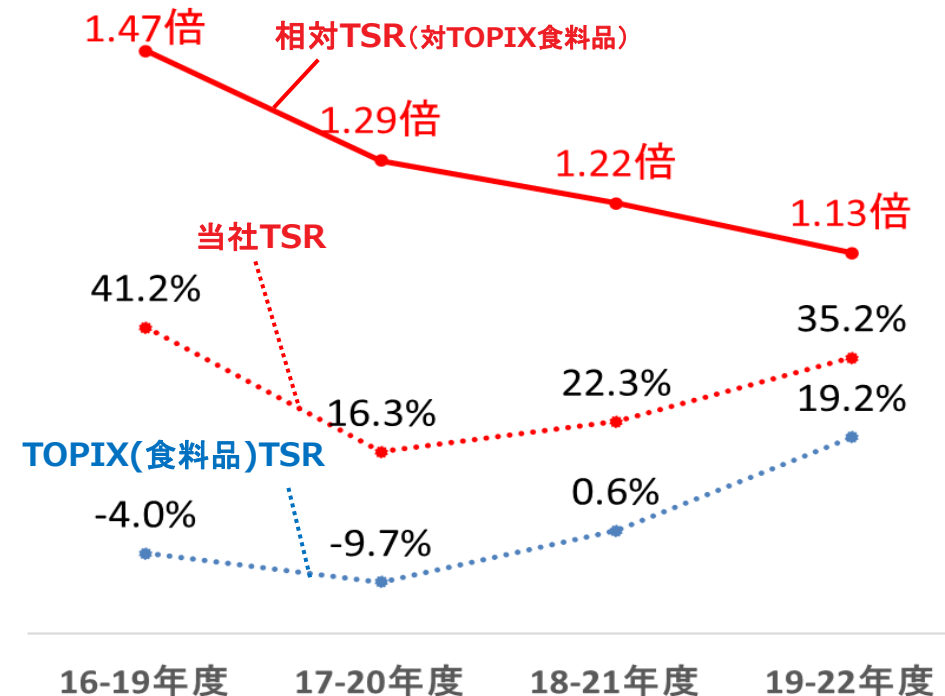


- ✓ 中長期成長戦略2030において、資本収益性の指標として**ROE**を採用。当社の**株主資本コスト4~6%**に対し、資本収益性をモニタリング。
- ✓ 株主還元指標として**累進的配当**に加え、**相対TSR**（対TOPIX食料品）を採用。同セクターの市場評価に対し、一定評価が得られているか、相対TSRを通じモニタリング。

ROE推移



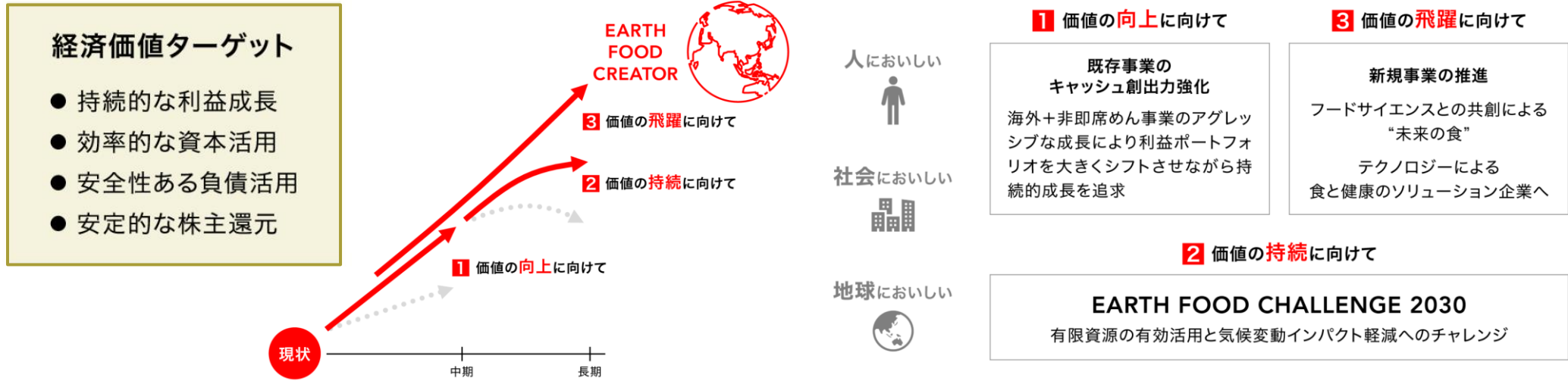
相対TSR (対TOPIX食料品) 推移



資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応 – 方針・目標と取り組みの実行

方針・目標

✓ 中長期成長戦略2030で掲げている**4つの経済価値ターゲット**を追求する



(取り組みの事例)

取組みの実行

- ✓ 資本効率性を担保するため、**重要な投資案件に対するハードルレートを地域別に設定**
投融資委員会にて事前審議、投資後のモニタリングを行い、**モニタリング結果を取締役会に報告**
- ✓ 安全性ある負債活用として、**財務規律の範囲**(Net Debt/EBITDA ≤2倍) **での財務レバレッジ活用**
による資本効率性の向上
- ✓ 株主との利益共有を図るため、**役員報酬の一部を相対TSRに連動**
- ✓ 政策保有株式等の売却による資産圧縮を通じた収益性向上